

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

1192(建久2)年の今日は、臨濟宗の開祖・栄西が宗から帰国し、茶の種と製法を持ち帰った故事から「日本茶の日」。その中でも抹茶は、日本の

伝統的な茶道文化と深い関係があり、海外では抹茶を通じて「静けさ」・「精神性」・「丁寧暮らし」といった日本文化の価値観に触れられる点が評価されている。私達も日本の文化やライフスタイルに対して更に関心を懐くべきなのだろう。

10月中旬、松本市内で開催された松本信用金庫・しんきん同友会が主催するスポーツジャーナリスト増田明美さんの「自分という人生の長距離ランナー」の講演を聴講する。増田さんは高校時代に長距離走のトップランナーとなり92年に引退するまでの13年間に日本最高記録12回、世界最高記録2回更新という記録を残した多くの人が知る人物だ。ホテルに前泊し、同行した夫と松本市内を夜と朝にランニングし、訪れた地域を研究する

人生の「知好楽」の楽しみ方を知る

熱心に驚かされる。そしてランナーから見る松本の魅力を分析して伝えることにより、ランニングの魅力もアピールする。相澤病院近くにスピードスケート金メダリストの小平奈緒さんが「さまざまな気持ちが行き交う日々、ほっと息、さやかなぬくもり」をテーマにオープンしたクライミング・カフェの話になったが、ほとんどの人が知らないことに驚く。シフォンケ

加するが、途中奈緒。懸命に再起に挑みながら引退した経験から「人生はいろいろ。笑えないときもあるけど、そういうときでも一回は笑いましょう」の呼び掛けは心に強く届く。

最後に自身の座右の銘として論語の中の「知好楽」を紹介。物事に対して、よく知っているだけの人は、それが好きな人にはかなわず、さらに、それを楽しむ人にはかなわないという意味だが、今までの私のマラソンは「知」だったと思っただ。人生という長距離走は「知好楽」で楽しむの「さよーなら、



「自分という人生」のテーマが会場を埋める聴講者の関心の深さを物語る
.....
さよーならくよ」を身振り一緒に歌いながら、大拍手の中を降壇したサーピス精神いっぱい、の明るい講演会であった。
(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)